

人権啓発センター だより

平成28年2月

No.26



「大ヒットメーカー、実は人権派監督」

「E. T.」「未知との遭遇」「インディ・ジョーンズ」といえば映画ファンならずとも名前が浮かぶだろう映画監督、スティーブン・スピルバーグ。この監督にはこうしたメガヒット作品群とは別に、「自分が撮らないといけない」という使命感をもって作り続けているもう一つの系譜があることをご存知だろうか。

例えば、第二次世界大戦下でユダヤ人 1,200 人を大量虐殺から救済したドイツ人実業家を描いた「シンドラのリスト」。例えば、アフリカからさらわれ、奴隷輸送船で反乱を起こした黒人たちを

助けるために元アメリカ大統領が弁護を引き受け、無罪を勝ち取る「アミスタッド」。最新作「ブリッジ・オブ・スパイ」も、国籍・人種を問わず、人権は守られなければならないと訴える弁護士が登場する実話ものだった。

読み書き学習に困難を抱えるディスレクシア（識字障害）に苦しみ、いじめを受けたスピルバーグゆえだろう、虐げられた人々の〈救済〉を題材にし続け、二度と繰り返されてはならない悲劇があることを多くの観客に訴え続けている。

（高知県人権課 土居）



人権あれこれ

パラスポーツの魅力 ～視覚障がい者クライミング～

近年、「パラスポーツ」という言葉がよく使われている。パラスポーツはパラレル（並列）したスポーツ、付属ではなく独立したスポーツという意味を持っている。

5、6 年前からスポーツクライミングを始めている。この前、視覚障がい者と健常者がアイマスクを付けて壁をよじ登る大会が県内で開催された。指定されたホールド（突起）をさがして、手と足で登るのである。

ホールドをさがす時、そばにいる人が「2 時！大！」などその方向と距離を声で示し、サポートする。クロックポジションと呼ばれ、時計の短針で方向を表す。「大」は腕を伸ばし切った距離である。

登る人はサポートする人とコミュニケーションを交わしながら、視覚にたよらず、聴覚と触覚を研ぎ澄ましていく。今まで経験したことのない自分の可能性が広がっていくのである。



（研修講師 川崎）



じんけんライブラリー

一押し本

『「みんなの学校」が教えてくれたこと ～学び合いと育ち合いを見届けた3290日～』

木村泰子／著 小学館 (1,400円＋税)



大阪市の公立小、大空小学校が目指すのは「不登校ゼロ」。すべての子どもに居場所がある学校を作りたいと、障害のある子どももいない子どもも、みんな同じ教室で学んでいます。開校から6年間、児童と教職員だけでなく保護者や地域の人も一緒になって誰もが通い続けることができる学校をつくりあげてきました。

本書は、この大空小学校の初代校長である木村泰子氏の初の著書。

※3月6日(日)にハートフルセミナーとして「みんなの学校」上映会を行います。
4面をご覧ください。

(企画啓発課 宮田)

新刊・新着DVD紹介

【新刊】

●新しい発達と障害を考える本 第Ⅰ期

『もっと知りたい! 自閉症のおともだち』他3冊

●新しい発達と障害を考える本 第Ⅱ期

『なにがちがうの? アスペルガー症候群の子の見え方・感じ方』他3冊

(内山登紀夫/監修 ミネルヴァ書房)



大ロングセラー「発達と障害を考える本」の新シリーズ。特に反響の大きかった「自閉症」「アスペルガー症候群」「LD」「ADHD」の4つの発達障害についてさらに掘り下げた、子どもと大人が一緒に考え学べる工夫がいっぱいの絵本。学校生活や暮らしの中でできる工夫や支援を具体的に紹介しています。巻末には知っておきたい知識をまとめたQ&Aも掲載。オールカラー、ルビ付き、イラスト満載で、発達障害をもつ子どもたちの見え方や感じ方が、子どもでも理解しやすい構成。

【新着DVD】

●マタニティハラスメントから考える職場の人権 (30分 2015年 自己啓発協会)

管理者として職場の同僚として、また妊娠をした女性社員にとって、予防や解決のためにできることはなにか? 視聴者が一緒に考えるために制作されたDVD教材。



●障害者と補助犬の生活から学ぶやさしい気持ち、いたわりの心 (全4巻) (1巻20分 2015年 社団法人 全国補助犬育成連合会)

補助犬とその補助犬を必要としている障害者との生活をわかりやすく解説した、盲導犬編・介助犬編・聴導犬編・総合編から構成。「国語」「社会科」「道徳」「総合的な学習の時間」等の授業で活用できる作品。小中学生にぜひ知ってもらいたいことが20分間のショートストーリーでわかりやすくまとめられています。

登録講師 出前します！(人権啓発登録講師派遣事業)

私たちがおうかがいします (派遣登録研修講師の紹介)

☆ 堀川 美彌 (ほりかわ みや)



『水平社宣言』の中にある「人間は尊敬すべきもの」という言葉がとても気に入っています。

色メガネをかけずに、人を人として「平等」にみる、そして誰に対しても同じ態度で接する、そんな人間になれるように

ただ今も精進中です。

長い間、人権教育にかかわれる環境にある幸せに感謝しつつ、今後も、さまざまな人権課題に挑戦していきたいと思っています。

☆ 岡本 雅道 (おかもと まさみち)



20 歳代の若い日、私は高校教員として幡多の地にいました。そこで一人の若者の死に直面しました。若者の出身部落の青年が言いました。

「学校は、先生ら一は何しよんな」

この言葉が私の道を決めまし

た。「また一枚脱ぎ捨てる 旅から旅」

自分には何のことやら分からない、山頭火のこの句をつぶやきながら、今もトボトボ・ヨロヨロと歩んでいます。

☆ 松本 香代 (まつもと かよ)



高知県教育委員会生涯学習課勤務中は、社会教育主事として「社会教育における人権教育」を担当し、各市町村の社会教育諸学級や保育所・学校のPTAなどへの研修活動への研修活動の企画・立案などの支援や研修を行ってきました。

生涯学習社会において、人権に関する学習活動をより充実させるためにも、これまでに培ってきました微力を発揮させたいと思います。

☆ 和田 章 (わだ あきら)



今まで、多くの人生経験を重ねながら歩んでまいりましたがまだまだ分からないことだらけ。世の中の不平等さや矛盾など多くの出来事に出会うたびに心を痛め、幾度、涙を流したことが。

でも、小さな出会いの積み重ねから少しずつ元気をもらい夢や希望を語れるようになりました。歩んできた道は、公立中学校の教員、社会教育主事、教育支援施設や被害者支援施設での出会いです。

☆ 吉田 文茂 (よしだ ふみよし)

【専門分野】高知県をフィールドとする部落史・部落解放運動史(特に、近現代)

【ここ3年間に依頼のあった研修テーマ】

・「部落史に学ぶ」・「部落史から学ぶこと」・「学校で学ぶ被差別部落の歴史」・「全国水平社創立から学ぶこと」・「水平社宣言を考える」・「教科書無償50年」・「『同対審答申』50年」など

【著書】『透徹した人道主義者 岡崎精郎』和田書房 2008 年

【論文(最近のもののみ)】

・「高知県水平社と国沢亀」(『部落解放研究』191号、2011年3月)

・「西本利喜と高知の部落解放運動」(『高知市立自由民権記念館紀要』No.21、2013年1月)・村越良子さんと連名「回顧 教科書無償運動」(『部落解放』2014年12月号～2016年4月号)

☆ 間 章 (はざま あきら)



高知県社会福祉協議会の職員として、2001年の高知西南豪雨災害や2011年の東日本大震災、2014年の広島市土砂災害などで災害ボランティアセンターの運営支援に従事し、被災された方の生活復旧支援を担当しました。こ

うした経験の中で高齢者や障害のある方、子どもたちなど災害時に置き去りにされがちな方を支援していく大切さを学びました。

災害時の人権の問題を一緒に考えながら、南海トラフ地震に向けた取り組みを進めて行きたいと思います。



Information お知らせ

イベント紹介

平成27年度人権啓発研修ハートフルセミナー

「こどもこそミライーまだ見ぬ保育の世界ー」「みんなの学校」上映会

高知県では、子どもの人権や個性を尊重した教育を推進するとともに、家庭や地域の役割の重要性を周知するなど、子どもの人権に関する社会的関心の喚起・意識啓発や、子どもを人権侵害から守る取組を推進しています。

●日 時：2016年3月6日（日）

第1部 13:00～14:24

「こどもこそミライーまだ見ぬ保育の世界ー」



★様々な保育現場の子どもたちの日常を子ども目線でいきいきと記録し、現場の保育者目線で解説しています。

第2部 15:00～16:46

「みんなの学校」



★ごく普通の公立小学校でありながら、特別支援教育の必要な児童も同じ教室とともに学び、かつ不登校ゼロを実現した大空小学校を活写。第68回文化庁芸術祭大賞受賞。

●会 場：高知県立人権啓発センター 6階ホール

（高知県立人権啓発センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください）

●参加費：無料（申し込み不要）

●託児サービスを希望される方は、3月3日（木）までにご連絡ください。（6カ月～就学前）

●お申込み、お問い合わせは下記まで、電話、FAX、Eメールをお願いします。

（企画啓発課 宮田）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
 - ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
 - パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>